

平成30年度 事業実施計画書（モデル的事業）

団体名：国府まちづくり協議会

1. モデル的事業名	アーカイブズ構築事業
2. 事業名	飛騨国府歴史まちづくり推進事業 「飛騨国府アーカイブズ」構築事業
3. 目的	<p>地域の豊かな歴史文化遺産を未来に継承していきたいが、適切に收藏されていない。特に個人所蔵に帰している文化財については、散逸・滅失の危機に瀕している。</p> <p>本事業では、地域にある収集・保存すべき歴史資料等の現況確認および記録保存を行う。また、その利活用を検討する。</p>
4. 事業内容	<p>地域にある収集・保存すべき歴史資料・記録資料を「飛騨国府アーカイブズ」と捉え、これらの現況確認・記録保存を行う。また、その過程で国府町史編纂事業の成果も継承し活用する。</p> <p>そのほか、先進地域の事例や「飛騨国府アーカイブズ」公開に係る法令などを学ぶ。</p>
5. 効果見込	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料のデジタル化と公開に向けた権利関係の処理を済ませた上で、例えばTRC-ADEACのような既存のデジタルアーカイブプラットフォームを利用することで、最小限の労力で公開が実現できる。TRC-ADEACであれば、すでに高山市に利用実績があるので、運用費用についても最低限度の出費に抑えることが期待できる。</li> <li>・国府地域の記録資料の特長として、国府町有線テレビ放送（KHK）が制作した番組等の映像資料があり、これをアーカイブの目玉として位置づけることができる。</li> <li>・歴史研究の面では、岡村利平が編纂にあたった「飛騨史料」や大坪二市の著作が飛騨地域史研究に非常に有用であり、地域史研究に大きく寄与しうる。これにより、地域の魅力がさらに広く認識されることにつながっていくと考えられる。</li> <li>・資料のデジタル化により、地域の歴史文化遺産を未来に継承することができる。災害により文化財等に被害が生じた場合に、記録保存したデータが文化財レスキューにおける重要な材料となりうる。</li> <li>・地域の魅力を再発見することで、さまざまな局面で新たな価値を創造する可能性が期待される。</li> <li>・地域住民に地域への誇りと愛着を育むことで、住み続けたいと思えるまちづくりの実現に近づくことができる。</li> </ul>

平成 30 年度 事業スケジュール

月 日	項 目	事業内容 (対象・方法等)	摘 要
6 月～	資料調査	資料提供の呼びかけに応じた資料所蔵者のもとへ出張調査・撮影	
6 月～	資料調査	各区有文書の調査・撮影	
6 月～	資料調査	国府小学校にて学校資料調査・撮影	
6 月～	資料調査	KHK 映像資料の現況調査	
6 月～	資料調査	大坪二市資料の調査・撮影	
6 月～	資料調査	市公文書館に保管の行政資料、および国府町史編纂資料に関する調査	
随時	目録作成・資料整理	撮影資料の整理、公開にむけた調整	
12 月	講座	著作権等、公開に係る法令に関する勉強会	講師謝礼、交通費
1～2 月	講演会	先進事例の成果報告	講師謝礼、交通費

平成30年度 国府まちづくり協議会 収支予算書 (モデル的事業)  
「飛騨国府アーカイブズ」構築事業

【収 入】

単位：円

区 分	予算額	内 訳
市補助金	100,000	協働のまちづくり支援金(モデル的事業)
合 計	100,000	

【支 出】

単位：円

事業・科目	予算額	内 訳	
		支援金充当額	
事業費	100,000	100,000	
報償費	40,000	40,000	講師謝礼 (2名)
旅費	25,000	25,000	講師旅費
需用費	5,000	5,000	消耗品費
委託費	30,000	30,000	目録・解題原稿料
合 計	100,000	100,000	